

# 「東日本大震災に学ぶ」

中谷保美・小林央美

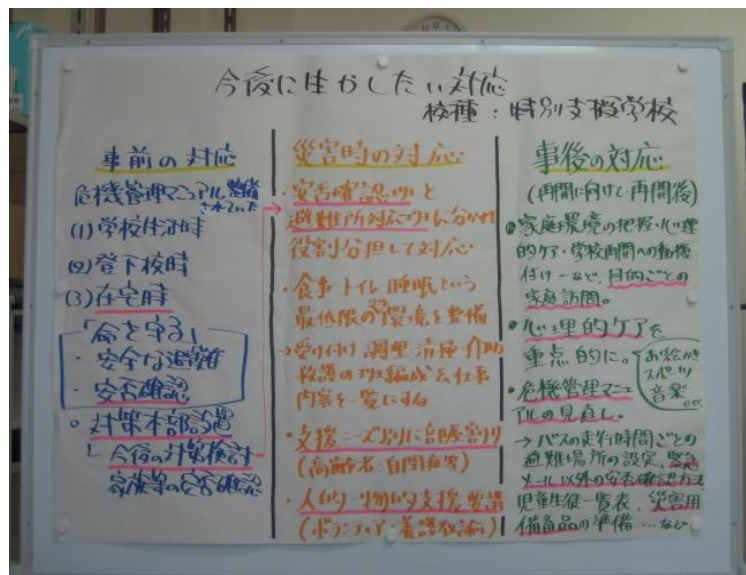
本科目は現職教員院生・学部卒院生の共通必修科目で、代表的な事例をもとに、協議・考察する形で授業が進められています。

今回紹介する授業は、昨年度前期に実施したもので、東日本大震災の事例を通して、地震災害時に、学校としてどのような対応をとるべきかを学ぶ内容となっています。



## 校種毎に班を作り、報告書を分析

授業の前半は、東日本大震災時、小・中・高・特別支援学校は、どのような状況下に置かれ、どのように対応していたのかを、実際の報告書をもとに校種毎に班を作って分析を行いました（上の写真）。



また、後半では、これらの事例から、今後に生かしたい対応（教訓）について班ごとにまとめました。

その後の全体協議の場で、各校種でまとめた資料（左の写真）を発表し合い、討議を行いました。この話し合いでは、震災当時すでに教職に就いていた現職教員

## 特別支援学校班がまとめた「教訓」

院生自身の経験や当時中学生だった学部卒院生の経験も語られました。また、各校種の異なった立場からの意見交換は実践的で、深い学びにつながりました。

この震災での犠牲はあまりにも甚大でしたが、生き残った私たちは、これらの犠牲を無駄にすることなく、学校現場で教訓として生かしていくことを誓った授業でした。